

ユーラシア大陸の縄文語地名

多元的古代史研究会 調布市 鈴木 浩

初めに

古田武彦先生の言素論では、『4000年ほど前の殷周革命時、いわゆる「魑魅魍魎」説話が
あった。現在の日本で祭られて居る「チ」や「ミ」の付く神々は、殷の時代にその大元が
あったのではないか。』このように古田先生は述べています。この説は遠大で説得力があり、
大変感銘を受けました。

私は以前から古い言葉に興味を持っており、地名には、非常に古くからの言葉が残されて
いるのではないかと、それは縄文語ではないかと思ひ、研究を始めました。

地名には必ず意味があると思われませんが、現代日本語では解明が難しい地名が数多くあ
ります。これらの地名を仮に縄文語地名と呼んでみました。すると、縄文語と思われる地
名が日本国内にとどまらず、ユーラシア大陸の広い範囲に存在することを発見致しました。

このテーマで2012年11月の多元誌No111で「蝦夷とは気高き勇者」の題名で報告
しております。この時はバイカル湖から東の地域のみ、39地名を取り上げました。

今回は範囲を大幅に広げ、北欧のフィンランド、東欧のハンガリー、ルーマニア、さら
に黒海、カスピ海周辺まで調べてみました。すると126ヶ所の縄文語地名、または、縄
文語らしき地名を発見し、その地名はどのような意味を含んでいるのか、また、類似の日
本国内の地名や人名などを当てはめてみました。Noは地名一覧表と地図上の番号と一致し
ます。

1、「チクシ」No32 北極海 レナ川河口

「レナ川」白夜航路4000キロを行く、伊藤一著 北海道新聞社 2001年発行
P45から引用「チクシの前に広がっている海は遠浅である。沖に向かって何百キロも水深が
百メートル以下の浅い海が続く。船舶は座礁が怖くて岸に近づけない。

調べてみると、平坦な海底には溝が何本か刻まれていることがわかった。海底が陸上
にあったところに刻まれた昔の谷の傷跡である。大した深さではないが、周囲に比べると、い
くらか安全に船を進めることができる。そんな理屈は知らなくても、昔の人は経験から水
底水路の存在に気付いていたようである。慎重に舵をあやつり、特定のコースをたどると、
無事に岸に近づけることを知っていた。このようなコースはそんなに沢山あるわけではな
い。限られた個所でだけ船を陸へ近づけることができる。チクシは数少ない地点の一つで
あった。

[チクシ]とは、先住民の言葉で[上陸可能地点]という意味である。」

ここで伊藤一氏が言っている先住民とは「エヴェン族」のことで、この地名がつけられ
たのは1970年代、米ソの原子力潜水艦が北極海の氷の下にうようよいた時代で、ソビ
エト艦隊の補給基地として、北極海に面したレナ川河口に、この町が造られました。

九州島の「筑紫」については「江釣子古墳群の謎」古代東北と蝦夷 大友幸男 三一書
房 1994年発行 P158から引用 (3) 神話にみるアイヌ語地名

『・・・日本神話といえば最初に浮かぶのが「天孫降臨」で、「ニニギの尊」は「筑紫の日
向の高千穂の峰」に天降ったといっています。ただし「高千穂」は「高い峰」という普通
名詞だったようで、具体的な地名としては「久志布流・くじふるの岳」に天降ったと「古
事記」は伝えています。万葉仮名ですがこれは実在した山の名だったらしく、阿蘇山系に
は「久住山」や「九重山」があります。「クジフル」－「クジュウ」はありそうな変化にな
ります。

ところがアイヌ語の「クシ・フル」(クジ・フル)はそのまま「超える・丘」になります。
古代人は健脚で、旅をするときは高い山を「山あて」にし、尾根伝いに最短コースをとっ
たといわれます。そういう「山あて」にする山が「クシフル」で「チ・クシ」(吾ら・超え
る所)とも呼びました。「チクシ」は「川」や「海」の「渡し口」にもつきました。・・・

岩手県や秋田県には「筑紫森・つくしもり」や「突紫森・つくしもり」などと呼ぶ山がありますが、ちょうど「山あて」にして奥地に越えるような地形になっています。・・・ところが九州地方などには「クシ」のつく地名が各地にみられ、とくに海岸の港や半島などについています。**対岸などに渡るところです。』**

大友幸男氏の説を簡単にまとめると、「チクシ」は川や海の渡し口に付き、対岸に渡るところについた。これは「渡し場」「船着き場」「上陸地点」を表し、ロシア・エヴェン語のチクシの「上陸可能地点」とほぼ同じ意味を含んでいます。「チ」は人の意味でオロチ族、ウリチ族、カグツチなど。「クシ」地名 久慈、串間、串良、釧路、越、串本、村串など。

2、**バイカル湖 No1** 世界の地名・その由来（アジア編）和泉光雄編著 講談社出版サービスセンター 平成9年発行

P191 から引用 「チェルク語系のヤクート、カザフ、キルギス語の bai” 豊かな”、kul” 湖” の転訛で魚類が多く豊富な湖であることからとされている。・・・ある学者は言語学上からチェルク語、モンゴル語バイガル Bai-gal” 水が多い、広い水域” である。」

以上から、バイは豊かな、カルは湖、海の意味があることがわかります。

「津軽」は「トゥ・カル」で「トゥ」（二つの）、二をトゥと発音する言語にはアイヌ語、朝鮮語、ドイツ語、英語などがある、カルは海です。

トゥカル（津軽）とは東側を陸奥湾、西側は日本海に大きく開いた有馬（うるま）湾にはさまれたところの意味になります。古代の有馬湾は現在十三湖に姿も名も変えています。

「トゥ」地名にはトゥシマ=対馬があり、北縣、南縣二つの島の意味になります。

3、**トゥルカ No13** バイカル湖東岸 「トゥ」は二つ、「ルカ」は川、二つの川の合流するところの意味。

「ルカ」地名 No 3 6 イルガ（レナ川流域）、No 4 2 イガルカ（エニセイ川流域）、No61 ヴォルガ川、No74 トウルク（フィンランド）、No78 トウルグ（ハンガリー）、No92 トウルカ（ルーマニア）、No101 トウルグ・ジウ（ルーマニア）、No125 ヴォルガ川（エストニア）、シルカ川（アムール川の支流）、アルカ川 3 ヵ所（オホーツク海にそそぐ川の支流）

敦賀（ツルガ）とは木の芽川と黒河川が合流して笙の川となり、敦賀湾に流れ込むところ。

「ルカ」地名は駿河（ス・ルガ=流れの早い川）、有鹿川 海老名市（ア・ルカ=吾らの川）斑鳩 奈良県など。

4、**クダラ No11** バイカル湖東岸 日本語で「クダ」とはホース状に曲がりくねっている状態を表す、川が曲がりくねっている所につく地名。

「百済」は漢江が蛇行している様子、「ラ」行は所という意味を持っている。

中小河川の流れが蛇行している様子は、だれが見ても一目瞭然で、いろいろな言葉を使って地名がつけられています。

No2 クネルマ、No3 クルカ、No19 クマラ、No23 ネリマ、No38 クダ、No118 クラ川（ジョージア・グルジア）、球磨川、千曲川、阿武隈川、練馬（石神井川）など。

今年8月に多元の会員6名で一般ツアーに参加し、ウランウデ、イルクーツク、バイカル湖旅行に行ってきました。調査の結果、バイカル湖周辺の縄文語と思われる地名は、ほぼブリヤート語ではない事が判明いたしました。

まとめ

縄文時代の温暖期は8千年前ごろから始まり、6千年前ごろピークに達した。その後、気温が下がり始め、4千年前ごろから寒冷期が始まり、弥生海退期につながる。現在の海面は縄文海進のピークであった6千年前より4~5m下がっていると言われている。

このような気温の変化や、地域によっては湿潤化や乾燥化が進み、そこに住む人々の生活環境に大きな影響を与えた。この気象変動によって多くの民族が移動を余儀なくされた。

緯度の高いシベリアに住む民族は寒冷化によって、東南アジアのスンダランドに住んでいた人々は海没によって移動が激しくなり、日本列島にも多くの人々が流入してきた。

NHK テレビ番組「日本人はるかな旅」制作時、現代日本女性300人のDNAを分析した結果、9人の母親の系統に分類された。その結果は下記のようになった。

バイカル湖畔の母親・・・32%

中国黒龍江河畔母親・・・11%

中国南部3人の母親・・・33%

東南アジア4人の母親・・・24%

現代日本女性の実に32%、ほぼ3分の1が、シベリアバイカル湖畔に住んでいた母親のDNAを受け継いでいることになり、一人の母親としては、他の地域を圧倒している。

この結果も、日本列島に北方系縄文語地名の多い理由の一つと考えられます。

匈奴はBC5世紀からAD5世紀まで中国に侵入し続け、南匈奴の鮮卑族が建国した北魏、隋、唐は中国を支配するに至ります。匈奴の本体であった北匈奴がフン族となり、4~5世紀にかけヨーロッパに進出したことにより、アラン族、西ゴート族やゲルマンの民族移動が激しくなった。その結果、西ローマ帝国の滅亡を招き、ヨーロッパは古代から中世へと変化を遂げていきます。縄文語と思われる多くの地名が、北歐から東欧まで含むユーラシア大陸に見受けられるのは、壮大な民族移動の証を現在まで遺してくれた、貴重な「遺跡」と言っても過言ではないでしょう。日本の古代史は、その初期からユーラシア大陸の歴史と、深い関係があったことが窺えます。

ユーラシア大陸の縄文語地名 P1

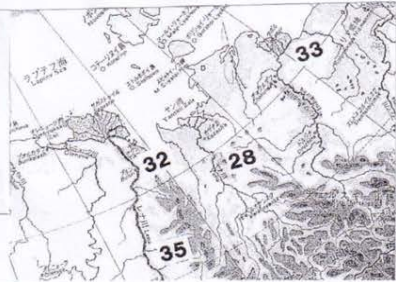
2018/8/24

	地名	地名の意味	日本の似ている地名、人名、言葉
1	バイカル湖	シベリア 以下ロシア地名	津軽 ソトウ=2 カル=海 二つの海に挟まれた所 軽嶋(海島) 軽宮(海の宮) 軽皇子(海・あまの皇子)大海皇子
2	クネルマ	イルクーツク近郊	東京都練馬区、石神井川が蛇行している様子、曲がりがちな所 薩摩、有馬、掃屋
3	クルカ	バイカル湖西方	まがりか(曲がり川) ク=曲者、屈折 ルカ=川 駿河・スルガ(平川) 敦賀・ツルガ(二つの川の合流する所)
4	タラヤ	バイカル湖西方	多羅国(高貴な国)、タラの芽(高い所に出る芽)
5	ザマ	バイカル湖西方	神奈川 県 座間市、隣市 海老名市(夏)の広い所 沖繩 座間味(慶留間諸島に囲まれた狭い海) マ=所 吾妻アズマ、吾の里
6	クルマ	バイカル湖西方	豊の平(群馬の旧称)、基柄 久留里、久留米、豊林、基島、久留孫城、久留孫山 クル=ウイグリス族、クルド族、モンゴロ(クル)族、ムダニ(クル)帝国、ニルニル族、五リ式(ローマ時代のフランス地方)、ハン(フ)ン、ズリ、ア、ン、ズ、ロ、ズ、ル、マ、ン、エ、ヴ、エ、ハ、ン、サンスクリット語のヴァルvar(ワモル)から派生した言葉。クルはエヴェンク語
7	シダ	バイカル湖西方	常陸の国 信太郡、志田氏
8	アヤ	バイカル湖西方	東京都足立区 綾瀬(水辺のよい所)、神奈川県 綾瀬市、綾織(良い織物)、綾子(良い子)、綾瀬氏、綾部氏(良い部族)
9	ウシク	バイカル湖オリホノ島	茨城県 牛久(広い草原)沼、シフ=シキ 敷嶋の大地(草原中津国の大和)、福岡県 阿志岐(ア=我ら、シキ=葦原)宝満山と宮地岳の間の盆地
10	エルガ	バイカル湖オリホノ島	江川氏 エ=良い、エヴェンク族=良い部族、エミシ=良い部族 ルカ=川 敦賀(トウリス)、駿河(スルガ)、百済 漢江が蛇行している様子 クダ=管(チューブ状) ラ=所 クダ人、クダラン(パイラート人)
11	クダラ	バイカル湖東方	猿田彦(猿田彦の本拠地は福岡県茶屋の石ころだけの海岸付近か)、若手県北上川支流 猿ヶ石川
12	サルマ	バイカル湖西方	敦賀市・木の茅川と荻の川が合流し敦賀湾に流れ出る所、トウ=2 対馬(2つの島、上県、下県) 津軽(佳典湾)有馬
13	トウルカ	バイカル湖東方	湾、2つの海に挟まれた所、津軽半島 カル=海、バイカル=豊がな湾 ルカ=川
14	ウダ川	バイカル湖東方	奈良県宇陀市、宇多川氏 ウ=大日 重女・空ヒルメ、空母、海(ウミ)
15	オナ川	バイカル湖東方	宮城県女川市 おなご(女)=母なる川
16	ハルギノ	バイカル湖西方	川崎市長生区はるひ野、掃屋(人の住む張り出した所)
17	チダ	アムール川沿い エヴェンク語	愛知県 知多半島、常滑焼の産地
18	オロチ	アムール川(おはよう)川沿い	出雲 神話ハ岐オロチ オロチ=ナカイ チ=人、トナカイ飼う民族、ウリチ族=大地に住む部族、サミ人語でトナカイをオラと言
19	クマラ	アムール川沿い	熊本県 球磨川 球磨川が蛇行している様子、人吉盆地。ク=逆者、屈折、千曲川、阿武隈川 クマソ=くまに住む人
20	タマラ	アムール川沿い	多摩 古代武蔵国 中心部の横浜、川崎地区から見て高台の所 タ=高い マ=所 高台
21	アルガ	アムール川沿い	神奈川県 東海名市 有馬(アルカ)神社、ア=吾 ルカ=川 有馬川(若手県) 丸山郡(若手県) マ=所 群馬、薩摩、掃屋、
22	ケマ	日本海沿い	沖繩・鹿児島 間列島 ケ=所 気比、気多(福井県)、気仙郡(若手県) 気比郡(若手県) マ=所 群馬、薩摩、掃屋、東・アズマ(ア=吾 ツ=への マ=所 吾が里) 吾妻、我妻(ひがしにはない)
23	ネリマ	日本海沿い	東京都練馬区、石神井川が蛇行している様子、練り歩く
24	ニギリ	沿岸州 タタル(韓半島) 海沿い	岩手県 気仙郡 新田(新たに金山を切り開いた所)、島根県 石見 銅山 新田坑道(新坑道)
25	クリル(諸島)	千島列島 エヴェンク語	高句麗(高氏部族の国) クリ=クル 卑の群(群馬の旧称)、栗栖、久留里、久留米、栗林、栗島
26	ウル	オホーツク(エヴェンク語) 海沿岸	沖繩 保丸マ市、青森県 津軽十三湖の旧称 有馬(うるま)湾
27	トキ	オホーツク 海沿岸	岐阜県 土岐市
28	ヤナ川	北極海沿い	福岡県 宗像市
29	ウスチ	エニセイ川 支流 アンガラ川沿い	群馬県 碓氷峠、箱根 碓氷
30	クロキノ	カムチャッカ(イリメン諸) 半島	福岡県 八女市 黒木町(クルキノかも、先住民の住む所) クロ=クル 奄美 諸島で黒砂糖を(五砂糖)という
31	ウチエキ	カムチャッカ 半島	大分県 白井市 ウチ=偉大な人 太日 重女=ウヒルメ キ=人の住む所 内氏
32	チクシ	レナ(大河)川河口 北極海沿い	茨城 水戸、上陸地、渡し場、越える。チクシ=人の渡る所、渡し場。釧路(水の出口) 豊本(渡し場の元)、シシアルの峰(山あての山)、若手県 久慈(くし)市、鹿児島 島間市、レナ川=アリナレ川、広川(筑後川支流、我が故郷の大河)

シベリアのチクシ No32

レナ川 No35

ヤナ川 No28



バイカル湖中部 Google



敦賀 Google 黒河川+木の芽川=笹の川

No13 トウルカ Google トウルカ川

